



札幌市長
上田文雄

女優
柳川慶子



戦後65周年・特別対談

次世代に
平和の尊さを語り継ぐ

女優の柳川慶子さんと上田市長が、平和の尊さをテーマに本郷新記念札幌彫刻美術館で対談を行いました。今回は対談を通して、それぞれの平和に対する思いをお伝えします。

平和への思いと活動

柳川 原爆で被害に遭われた方々の手記の朗読を、20年以上続けています。夏に全国を回り、今年も16回の公演を行います。

市長 原爆の悲惨さを伝えたいという気持ちがあつて、活動をここまで続けてこられ

このページに関する
お問い合わせは
区政課 ☎211-2252

柳川慶子(やながわけいこ)

1936年生まれ。東宝に所属し、映画に多数出演。その後は舞台やテレビドラマで活躍するほか、原爆の被爆者の手記を朗読する活動を行っている。義父は彫刻家の本郷新。

たんですね。

柳川 はい。平和の大切さは一度だけではなく、繰り返し伝え続けなくてはならないと思うのです。

市長 わたしも市長になる前から、平和の運動というのは自分の活動の柱の一つである、という思いを持ちながら仕事をしてきました。札幌市は平成4年に「平和都市宣言」をし、また平成20年度からは8月を「平和月間」と

しており、さまざまなイベントなどを通して、平和の大切さについて広く知ってもらい取り組みを続けています。

戦争体験を風化させない

市長 戦争体験者がどんどんお亡くなりになるといつ時代に差し掛かっていますので、市では5年間で100人の体験談を聞き取り、順次「札幌市民の戦争体験」という本にまとめ、学校の授業で活用する取り組みを始めています。

柳川 先ほど見せてもらいましたが、ゆっくり読んでみたいですね。

市長 自分のおじいちゃん、おばあちゃん時代に悲惨な戦争があつたんだ、身近にいる人がそれを体験をしているんだ、絶対に人ごとではない、ということ語り継いでいかなければなりません。

柳川 そうですね。義父の本郷新も、平和のために仕事をしていたところがあります。こんな悲しいことが二度と起きないように、その悲惨さを伝えていくことが、戦争を知っているわたしたちの責任です。今伝えないと、戦争体験は風化してしまいます。

わたしたちができること

柳川 戦争でひどい目に遭うのは子どもたちです。学校で朗読を聞いてもらう機会もあるのです、今の子どもたちに

分かってもらえるような朗読を、常に心掛けています。

市長 戦争に反対するだけでなく、起こさないよう、自分にできることを考え、語り合い、行動することが求められていますね。

柳川 ええ。わたしたちは世代間のバトンタッチも意識しています。平和への思いを次の世代につなげていくために、朗読の読み手も若い人に引き継いでいきたいのです。

市長 若い人ももっと平和について友達と話し合い、仲間を増やしてほしいですね。市では、毎年子どもたちから「平和へのメッセージ」を募集しており、今年も約2千700通いただきました。柳川さんもバトンタッチしないでいいと思うんです。若い人と仲間になつて一緒に活動を続けてください。わたしも一生頑張りますから。



「札幌市民の戦争体験」を閲覧できます

子どもにも分かりやすい表現で、30人の体験談を掲載しています。中央図書館、各地区図書館で閲覧できます。

「札幌市民の戦争体験」と、対談の様子はホームページでもご覧になれます

アドレス www.city.sapporo.jp/shimin/heiwa
(対談の様子は9月10日(金)から公開)

